

## スターバックスと寺院

檀家さんの月参りを朝6時から行って、8時にちよいとハンディーのある娘を起こし朝食を食べさせ、9時に介護施設に送り届けると、夕方4時まで自由になる日がたまにあります。そんな日はその足で新幹線に乗り、「六角堂」へ行きたくになります。



京都駅から地下鉄に乗り烏丸御池駅を下車、5番出口から地上に出ると烏丸通

り沿いに続くオフィス街です。間もなくスターバックスがあり六角通り、その角を左(東)に曲がった所に六角堂はあります。地元の人からは「六角さん」と呼ばれていますが、お寺の正式名は、「紫雲山しうんざん 頂法寺ちやうほうじ」と言います。それほど広大ではない境内は、四方を近代的なビルに取り囲まれています。そんなビルの谷間から突如、楠の老木と山門が現れます。

名前の如く、山門を入り正面に六角形の堂々たる本堂があり、御本尊は聖徳太子の念持佛ねんじぶつと言われている「如意輪観音菩薩にょいりんかんのんぼさつ」です。地獄図の中では、「血の池地獄」の畔で女性を助け出しておられます。「西國三十三観音霊場」の第18番札所でもあります。現在、京都は外国人観光客でどこも混雑していますが、ここはそうではなく巡礼者やご近所のお参りの方がちらほらという感じです。

六角堂の特筆すべき点は、四方を近代的な建物に囲まれているにもかかわらず、その霊験あ

らたかな古刹のたたずまいと無機質なビルとの違和感がなく調和していることです。ですから息苦しさや風通しの悪さを感じません。写真の御堂のお隣は「WEST18」という10階建ての多目的ビルです。1階にはスターバックスが入っています。普通でしたら寺方は、ビルとの境に瓦をのせたお寺らしい白壁の塀を建てることでしょう。しかしそうしなかったのは「WEST18」の設計に工夫があるからです。

WEST18は烏丸通りと六角通りの角に建ち、本来でしたら烏丸通りから六角堂境内は10階建ビルの陰に隠れてしまい見ることはできません。しかし、1階のスタバの境内側と烏丸通り側両面を全面ガラス張りにすることによって、以前は烏丸通りからは見ることは出来なかった六角堂境内がその2枚のガラス越しに見えるようになりました。新しい空間と古い空間に「境」をつくらないことによって、また工夫して多くの良い点が生まれることになりました。このスタバでは、観光客ではなく近辺で仕事している人が普通にコーヒータイムを楽しんでいます。店内から境内を眺めながらのコーヒーは気分良く、世界中探してもこんなスタバはないでしょう。更にお店の横にはガラス張りのエレベーターがあり、上空から本堂の六角形の屋根と境内全域を見ることができます。

六角堂は「いけばな」の発祥の地でもあり、代々当寺御住職は華道「池坊」の家元でもあられます。華道の四季折々に咲く花との触れ合いの心が、この新旧融合した境内地の不思議な空間を生んだのだと思います。 俊徳丸